

花きの県別生産出荷概況(11月見通し)

品目	県名	作型	主要品種	出荷期	作付面積	出荷見込み		8月のピーク(%)			主産地
				期間		ha	出荷総数	京浜地域向	上旬	中旬	
				(ピーク)	(前年比)	千本	千本				
トルコギキョウ											
	産地情報なし										
バラ	茨城	施設	アマダ, アバランチェ, サムライほか	周年	8	400	330	33	33	33	古河市, 石岡市他
	群馬	施設(周年)	アヴァランチェサムライ08ほか	周年 (5~11月)	12.8 (100)	886 (105)	613 (105)	33	33	33	前橋市 富岡市 昭和村
ストック	山形	秋冬出し	アイアンシリーズ [®] カルテットシリーズ [®] ほか	10~3月 (11~翌2月)	(98%)	2,500 (180%)	1,300 (180%)	30	40	30	JA庄内たがわ JA庄内みどり JA鶴岡 JAさがえ西村山 JAみちのく村山 JA山形 JA山形市 JA天童 JA山形おきたま ほか
	千葉	施設		11~4月 (2~3月)	40 100%	98 100%	60 100%	10	30	60	館山市(神戸、西岬)、南房総市(白浜の長尾、千倉、丸山、和田)、鴨川市

品目	県名	作柄及び概況	販売における現状と今後の見通し
トルコギキョウ		産地情報なし	<p>現状 高冷地は秋田、福島主体、西南産地は福岡中心の入荷となる。上旬はブライダル需要主体の動きがある。中旬以降は徐々に西南産地からの入荷が増加。</p> <p>見通し 大田花き 熊本、静岡も本格出荷となり例年並みの安定した出荷となる。月を通してブライダル需要中心の動きとなる見込み。 FAJ 熊本主体に。数量は昨年並みを予定。宴会から葬儀まで幅広い需要で相場安定。 東日本板橋花き 今後は、10月下旬より熊本県、静岡県、高知県の出荷が始まるので入荷量は増えてくる。 世田谷花き 高冷地の出荷も終盤。暖地からの荷物も出揃い、品質も安定。 東京フラワーポート 産地の入れ替え時期、千葉、熊本産上旬より増加。前年より多くなる見込み。</p>
	茨城	<ul style="list-style-type: none"> ・平年並み ・一部開花前進傾向となる地区がある。 ・品質も概ね良好の見込み。 	<p>現状 上旬の気温上昇に伴い、国産の暖地・高冷地が急増し供給過多となった。あわせて天候不順により厳しい販売となったが、下旬にかけては減少傾向。</p> <p>見通し 大田花き 国産は下旬へ向けて徐々に増加傾向となる。輸入品も相場を見ながらとなる為、現状では不安定な入荷が予想される。</p> <p>FAJ 引き続きブライダル需要主体の動き。高冷地徐々に終わり、関東や愛知など西南暖地に切り替わり。 東日本板橋花き 各産地大きな出荷のピークは無く、入荷量はおおむね横ばいの見込み。販売は婚礼等の業務需要中心に引き合い強まってくる見込み。</p> <p>世田谷花き 11月中旬から婚礼需要中心に相場は安定する見込み。</p> <p>東京フラワーポート 静岡、神奈川産が中心出荷、山形産は終盤となる。SPは愛媛産本格出荷となる。</p>
バラ	群馬	8月の曇雨天の影響は解消され、花のボリュームなど品質は良好となっている。出荷量は平年並となる見込み。気温低下から一部でうどんこ病の発生が見られるが、大きな問題にはならない。	
	千葉	<ul style="list-style-type: none"> ○ 8月下旬以降、低温で経過したため、早期開花による10月下旬～11月上旬の集中出荷が懸念された。 ○ 10月以降日照が少なかったことから、生育スピードが鈍化している。 ○ 11月の出荷量は、今後の天候にもよるが、出荷量の少なかった前年に比べ、多いと見込まれる。 ○ 病害虫はほとんどみられない。 	<p>現状 山形が例年同様、1週目、2週目より出荷開始となった。遅れていた昨年と比べると数量は多いが、平年並みの数量となった。中旬以降徐々に増えてくる。販売面では出荷開始から葬儀需要中心に動きが良い。</p> <p>見通し 大田花き 山形は安定供給が続く見込み。千葉は例年並みの20日ごろからの出荷となる。販売面では季節品目としての需要で動きはあるが、大きい需要はないため厳しい場面も出てくる。</p> <p>FAJ 山形など高冷地出荷本格化。前半やや山のある入荷の予定。</p> <p>世田谷花き 山形からの出荷が11月上旬あたりにピークを迎える。 東京フラワーポート 生育は順調、急激な寒さがなければ高冷地産の出荷ピークになる。</p>
	山形	<ul style="list-style-type: none"> ○ 8月下旬以降、低温で経過したため、早期開花による10月下旬～11月上旬の集中出荷が懸念された。 ○ 10月以降日照が少なかったことから、生育スピードが鈍化している。 ○ 11月の出荷量は、今後の天候にもよるが、出荷量の少なかった前年に比べ、多いと見込まれる。 ○ 病害虫はほとんどみられない。 	
	千葉	<ul style="list-style-type: none"> ①一部で病害虫の発生が見られるものの全体的に生育は順調。今後、天候が回復すれば、開花は早まる見込み。 ②西岬共選はアイアン・シリーズが中心となる。その他はカルテット・シリーズが中心。 	